



## 2024年12月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2024年5月15日

上場会社名 ブリッジインターナショナル株式会社  
コード番号 7039 URL <http://bridge-g.com/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉田 融正

問合せ先責任者 (役職名) 取締役専務執行役員経営企画本部長 (氏名) 八木 敏英

TEL 03-5787-3030

四半期報告書提出予定日 2024年5月15日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

### 1. 2024年12月期第1四半期の連結業績(2024年1月1日~2024年3月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年12月期第1四半期	1,868	16.6	148	14.9	198	12.6	116	1.4
2023年12月期第1四半期	1,602	1.3	175	16.3	175	16.5	118	17.1

(注) 包括利益 2024年12月期第1四半期 129百万円 (9.5%) 2023年12月期第1四半期 118百万円 ( 17.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年12月期第1四半期	31.47	
2023年12月期第1四半期	31.56	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年12月期第1四半期	5,468	4,002	72.6
2023年12月期	5,176	4,161	80.4

(参考) 自己資本 2024年12月期第1四半期 3,968百万円 2023年12月期 4,161百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2023年12月期	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年12月期		0.00		35.00	35.00
2024年12月期(予想)		17.50		17.50	35.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2024年12月期の連結業績予想(2024年1月1日~2024年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,842	26.0	947	3.7	947	3.4	616	4.2	164.59

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年12月期1Q	3,768,600 株	2023年12月期	3,768,600 株
期末自己株式数	2024年12月期1Q	131,489 株	2023年12月期	20,389 株
期中平均株式数(四半期累計)	2024年12月期1Q	3,716,697 株	2023年12月期1Q	3,758,753 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があり、当社は将来予測に関するいかなる内容についても、その確実性を保証するものではありません。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(セグメント情報等)	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### （1）経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、雇用環境の改善と名目所得の上昇がみられる中で、各種社会・経済政策の効果を享受しつつ、緩やかな回復が続くことが期待される一方で、円安の進行や原材料価格の高騰、物価上昇による個人消費への影響が懸念されるなど、我が国の景気を下押しするリスクが継続しています。

当社グループを取り巻く事業環境においては、引き続き多くの企業の法人営業活動において、標準的な営業スタイルとしてインサイドセールスが本格導入され、その定着や拡大を進める企業が増えています。一方で、このような本格的なインサイドセールス導入に際しては、企業は依然として新規顧客へのアプローチシナリオの策定と改善、デジタルマーケティング機能や組織との連携、インサイドセールス活動に必要なスキル向上等の課題を抱えており、インサイドセールス関連サービス提供の需要も高い水準を維持しています。また、企業内で自社の価値創造を進めるDX（※1）時代の人材戦略としてリスキリング（※2）の必要性の高まりも継続しており、企業向け研修市場は継続的な拡大基調が続いています。

このような環境のもと、当社グループはそれぞれの事業拡大に注力した結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、1,868百万円（前年同期比 16.6%増）、営業利益は148百万円（同 14.9%減）、経常利益は198百万円（同 12.6%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は116百万円（同 1.4%減）となりました。

※1「DX」：Digital Transformation デジタルトランスフォーメーションの略。企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること。

※2「リスキリング」：経済産業省が推奨する、コロナ禍による働き方の変化・デジタル時代の到来に対応した人材育成を企業が従業員に対して行う取り組み。

セグメント別の状況は以下のとおりです。当社グループは、今後の事業展開を踏まえた成長戦略を明確にすべく、当第1四半期連結会計期間からセグメント区分を変更しています。なお、前年同期比（数値）は前年同期の数値を変更後のセグメントに組み替えたものを用いています。

#### （インサイドセールスアウトソーシング事業）

インサイドセールス関連サービスの需要は引き続き高く、当社のアウトソーシングサービスの導入をきっかけとしたインサイドセールス組織の立ち上げの需要も高まっています。

このような環境のもと、同社グループのインサイドセールスアウトソーシング事業の当第1四半期連結累計期間における売上高は、1,100百万円（前年同期比 0.8%減）となり、セグメント利益は169百万円（前年同期はセグメント利益168百万円）となりました。

#### （C&S事業）

営業・マーケティング課題を整理、把握し、解決の実現策を提供するコンサルティングサービスの需要は高まっています。当社グループのC&S事業は、売上拡大やビジネスモデル変革に向けた、GTM戦略立案、エンゲージメントプロセス構築設計、オペレーションモデル構築、テックスタック構築を実施し、顧客企業のエンゲージメントプロセス統合とアジャイルでの運用支援を行い、他社との差別化を図りビジネスを拡大させます。

このような環境のもと、コンサルティングサービスの当第1四半期連結累計期間における売上高は、77百万円（前年同期比 161.9%増）、システムソリューションサービスの売上高は、374百万円（同 289.0%増）となりました。C&S事業全体では、452百万円（同 259.0%増）となり、セグメント損失は17百万円（前年同期はセグメント損失11百万円）となりました。

#### （研修事業）

当社グループの研修事業が属する企業向け研修市場は、DX推進リーダー人材を対象とした研修や、現有社員の能力向上及び、生産性向上・業務効率向上を目指すリスキリング強化研修等の需要があるため、研修事業において、教育コンテンツ等の充実、人材コンサルティングの提供、人材育成プラットフォームの仕組みを提供し、人材育成トータル支援を行い、他社との差別化を図りビジネスを拡大させております。

このような環境のもと、当社グループの研修事業の当第1四半期連結累計期間における売上高は、315百万円（前年同期比 14.2%減）となり、セグメント損失は2百万円（前年同期はセグメント利益18百万円）となりました。

当第1四半期連結累計期間のセグメント別売上高は次のとおりであります。

	当第1四半期 連結累計期間		前年同期 累計期間		増減	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	増減率 (%)
インサイドセールスアウトソーシング 事業計	1,100	58.9	1,109	69.2	△8	△0.8
コンサルティングサービス	77	4.2	29	1.9	48	161.9
システムソリューションサービス	374	20.0	96	6.0	277	289.0
C & S 事業計	452	24.2	125	7.9	326	259.0
研修事業計	315	16.9	367	22.9	△52	△14.2
合 計	1,868	100.0	1,602	100.0	265	16.6

## (2) 財政状態に関する説明

### (資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は4,284百万円となり、前連結会計年度末に比べ159百万円の増加となりました。これは主に、現金及び預金が381百万円減少したものの、棚卸資産が277百万円増加したことを要因としたものであります。

当第1四半期連結会計期間末における固定資産は1,183百万円となり、前連結会計年度末に比べ132百万円の増加となりました。これは主に、有形固定資産が44百万円増加、無形固定資産が46百万円増加、差入保証金の増加による投資その他の資産が40百万円増加したことを要因としたものであります。

これらの結果、総資産は5,468百万円となり、前連結会計年度末の5,176百万円から291百万円の増加となりました。

### (負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は1,090百万円となり、前連結会計年度末に比べ148百万円の増加となりました。これは主に、短期借入金が100百万円増加したこと、買掛金が41百万円増加したことを要因としたものであります。

当第1四半期連結会計期間末における固定負債は375百万円となり、前連結会計年度末に比べ302百万円の増加となりました。これは主に、長期借入金が279百万円増加したことを要因としたものであります。

これらの結果、負債合計は1,465百万円となり、前連結会計年度末の1,014百万円から450百万円の増加となりました。

### (純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は4,002百万円となり、前連結会計年度末の4,161百万円から159百万円の減少となりました。これは主に、当第1四半期連結累計期間に親会社株主に帰属する四半期純利益を計上したことにより116百万円増加したものの、配当金の支払により131百万円減少、自己株式の取得により179百万円減少したことを要因としたものであります。

この結果、自己資本比率は72.6%（前連結会計年度末は80.4%）となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当事業年度の業績につきましては、2024年2月9日の「2023年12月期 決算短信」で公表いたしました通期業績予想に現時点では変更ありません。

なお、当該業績予想につきましては、現在入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は様々な要因により異なる可能性があります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,694,383	2,313,218
売掛金及び契約資産	1,077,504	1,253,773
商品	—	212,664
仕掛品	43,779	108,624
貯蔵品	4,180	4,102
その他	305,205	392,459
流動資産合計	4,125,054	4,284,841
固定資産		
有形固定資産	360,777	405,663
無形固定資産		
ソフトウェア	350,964	324,092
のれん	3,252	77,722
その他	25,099	24,430
無形固定資産合計	379,315	426,246
投資その他の資産	311,530	351,792
固定資産合計	1,051,624	1,183,702
資産合計	5,176,678	5,468,543
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	150,305	191,721
短期借入金	—	100,000
1年内返済予定の長期借入金	50,009	87,225
未払法人税等	123,637	75,171
賞与引当金	241,995	137,934
役員賞与引当金	15,868	4,252
その他	360,274	494,151
流動負債合計	942,090	1,090,456
固定負債		
長期借入金	66,676	346,259
その他	6,101	29,098
固定負債合計	72,777	375,357
負債合計	1,014,868	1,465,813
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	552,000	552,000
資本剰余金	423,744	423,744
利益剰余金	3,225,292	3,211,069
自己株式	△37,398	△217,026
株主資本合計	4,163,639	3,969,789
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△1,829	△941
その他の包括利益累計額合計	△1,829	△941
非支配株主持分	—	33,881
純資産合計	4,161,810	4,002,729
負債純資産合計	5,176,678	5,468,543

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年3月31日)
売上高	1,602,787	1,868,279
売上原価	1,097,002	1,272,812
売上総利益	505,785	595,466
販売費及び一般管理費	330,727	446,540
営業利益	175,057	148,926
営業外収益		
受取利息	8	13
助成金収入	925	2,120
保険解約返戻金	—	49,388
その他	333	658
営業外収益合計	1,267	52,181
営業外費用		
支払利息	231	1,534
為替差損	185	734
その他	—	694
営業外費用合計	417	2,963
経常利益	175,907	198,143
特別損失		
固定資産売却損	—	2,563
特別損失合計	—	2,563
税金等調整前四半期純利益	175,907	195,579
法人税等	57,295	67,143
四半期純利益	118,611	128,436
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	11,471
親会社株主に帰属する四半期純利益	118,611	116,964

（四半期連結包括利益計算書）  
（第1四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第1四半期連結累計期間 （自 2023年1月1日 至 2023年3月31日）	当第1四半期連結累計期間 （自 2024年1月1日 至 2024年3月31日）
四半期純利益	118,611	128,436
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△513	888
その他の包括利益合計	△513	888
四半期包括利益	118,098	129,324
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	118,098	117,852
非支配株主に係る四半期包括利益	—	11,471



## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2024年2月26日開催の取締役会決議に基づき、自己株式111,100株の取得を行いました。この結果、当第1四半期連結累計期間において自己株式が179,628千円増加し、当第1四半期連結会計期間末において自己株式が217,026千円となっております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間（自 2023年1月1日 至 2023年3月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	インサイドセ ールスアウト ソーシング事 業	C & S 事業	研修事業	合計		
売上高						
(財又はサービス種類別)						
アウトソーシング	1,109,044	—	—	1,109,044	—	1,109,044
コンサルティング	—	29,773	—	29,773	—	29,773
システムソリューション	—	96,173	—	96,173	—	96,173
研修	—	—	367,795	367,795	—	367,795
顧客との契約から生じる収益	1,109,044	125,946	367,795	1,602,787	—	1,602,787
外部顧客への売上高	1,109,044	125,946	367,795	1,602,787	—	1,602,787
セグメント間の内部売上高又は振替高	120	771	5,423	6,314	△6,314	—
計	1,109,164	126,718	373,218	1,609,102	△6,314	1,602,787
セグメント利益又は損失 (△)	168,242	△11,692	18,470	175,020	36	175,057

(注) 1. 収益の分解情報は、主要なサービスに区分して記載しております。

2. 調整額はセグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益又は損失 (△) は四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

## II 当第1四半期連結累計期間（自 2024年1月1日 至 2024年3月31日）

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	インサイドセ ールスアウト ソーシング事 業	C&S事業	研修事業		
売上高					
(財又はサービスの種類別)					
アウトソーシング	1,100,582	—	—	1,100,582	—
コンサルティング	—	77,978	—	77,978	—
システムソリューション	—	374,130	—	374,130	—
研修	—	—	315,587	315,587	—
顧客との契約から生じる収益	1,100,582	452,109	315,587	1,868,279	—
外部顧客への売上高	1,100,582	452,109	315,587	1,868,279	—
セグメント間の内部売上高又 は振替高	300	1,106	3,410	4,816	△4,816
計	1,100,882	453,215	318,997	1,873,095	△4,816
セグメント利益又は損失 (△)	169,140	△17,968	△2,327	148,844	81

(注) 1. 収益の分解情報は、主要なサービスに区分して記載しております。

2. 調整額はセグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益又は損失 (△) は四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

## 2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第1四半期連結会計期間から、今後の事業展開を踏まえた当社グループの成長戦略を明確にするため、報告セグメントを従来の「インサイドセールス事業」、「研修事業」の2区分から、「インサイドセールスアウトソーシング事業」、「C&S事業」、「研修事業」の3区分に変更しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第1四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

## 3. 報告セグメントごとの資産に関する情報

当第1四半期連結会計期間において、トータルサポート株式会社の株式を取得し、新たに連結の範囲に含めております。また、2BC株式会社の全株式を取得し、子会社化した後に吸収合併を行っております。これにより、前連結会計年度の末日に比べ、当第1四半期連結会計期間末の報告セグメントの資産の金額は、「C&S事業」において768,069千円増加しております。

## 4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「C&S事業」セグメントにおいて、当第1四半期連結累計期間に、トータルサポート株式会社を連結の範囲に含めたこと、及び、2BC株式会社の全株式を取得し、吸収合併したことにより、のれんが78,665千円発生しております。